愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚金五厘一ヶ月分七錢三ヶ月貳拾壹錢半年分四拾貳錢壹ヶ年分八拾四錢全國無遞送料郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麹町區下二番町三十七番地大日本女學會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社説

大勝利

希臘の大哲學者プレトーは曰く『克己は勝利の最大なるもの也』と、實に己に克つほど大切なる行はあらず。大概人の貧窮に泣き病苦に惱むもの、其原因は己の慾を抑ふること能はざるに在り。人若し遊惰の慾、奢侈の慾、名利の慾など萠すまゝに之を抑ふることなく、いよ〳〵逞ましくつのらしめなば、如何に富豪の家にても竟に貧窮に陷らざるを得ざるべし。酒色の慾に耽り美味の慾に飽き安逸の慾を貪らば如何に健康の體にても、竟に病苦に攻められざるを得ざるべし。

世には鋭意以て己れの慾に克ち、一生の間に鉅萬の富を積める例も多かるに、祖先が蓄へし資産を讓り受けて之を守護せんことは、さまで難き業にはあらざる道理なり。苟も己に克たば人並の身躰を有ちながら、生活に苦しむなど禽獸にも及ばざる不覺は取らざるべし。

「人は死するに非ず自殺するなり」と古人は云へり、實に人の天壽を完うして終る者極めて少なく大抵は己れの慾に克つこと能はずして、自らの不攝生不養生によりて身躰を虛弱ならしめ、或は不注意よりして病氣に感染し、終に夭折の不覺を取るものなり。世の中に下賤の者は比較的身躰健康にして、上流の人多くは虛弱なり。是れ下賤の者は不自由なる爲に己れの慾を逞しうせしむること少なきも、上流の人は自由に任せて安逸飽暖の慾に耽るが故なり。

惟ふに我が愛國婦人會々員方は、能く己れの慾に克ちて浪費を節約し、以て慈善の爲に義捐せらるゝほどの人々なれば、貧窮に陷らるゝ虞はこれなかるべきも、病苦に至つては上流の人に却ッて多きは日本の通弊なれば、會員方も亦免れ給はざるべし。願くは茲に年の改まると共に、いよ〳〵勇を鼓し氣を勵まし、己に克つといふ大勝利を得て、以て天壽を完うし給はんことを。

◎軍艦淺間航海記事　其二（禁轉載）

相談役　海軍少佐子爵　小笠原長生

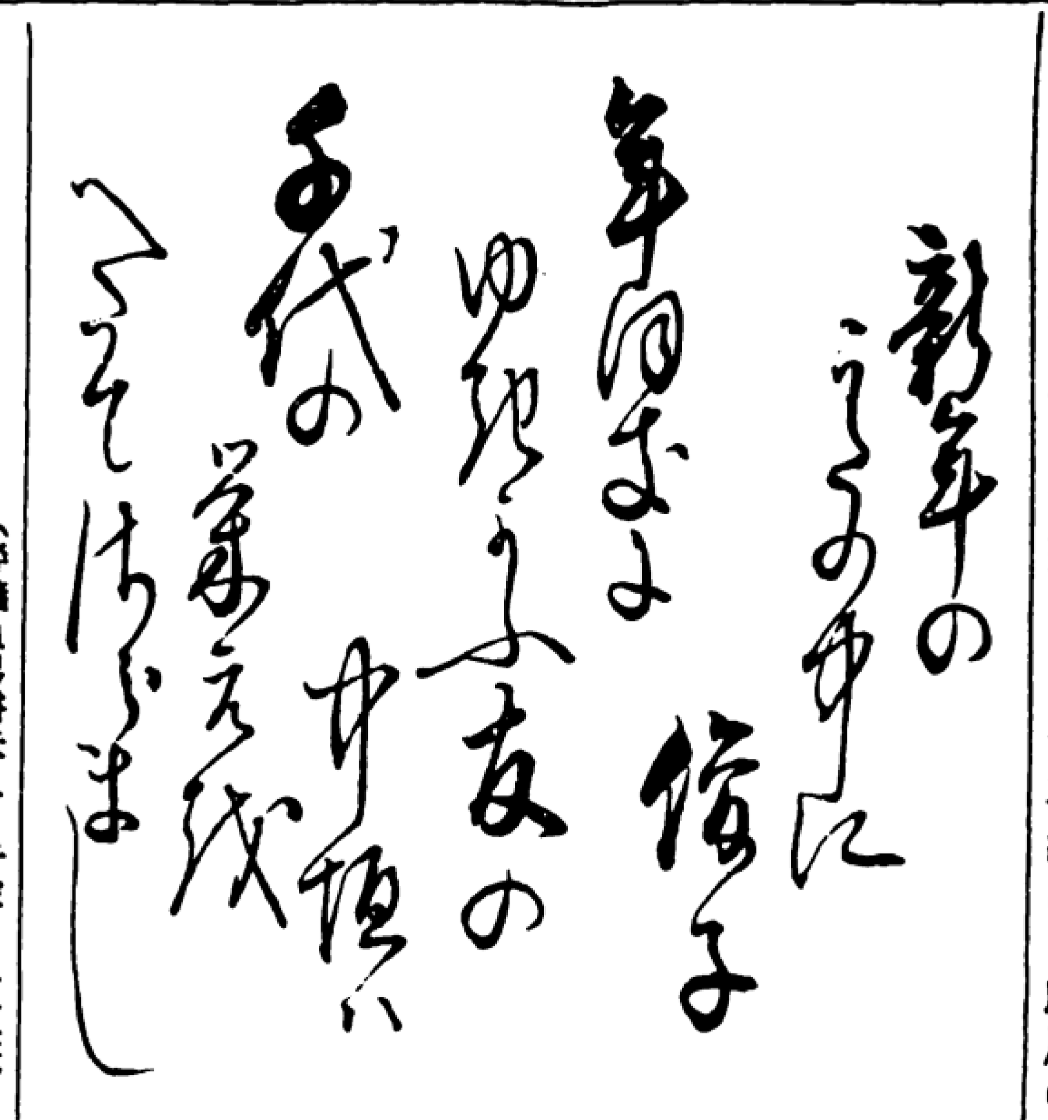
淺間、高砂の二艘は、昨年四月七日に横濱を出帆して、十一月廿八日に横須賀に歸着したので、其間僅に八ヶ月程であるが、廿二ヶ所に入港して航程合せて二万六千二百六十九海里に上つて居ります。それゆゑこれを細に御話するも非常に長くなりますから、ごく大躰を述べる事に致します。殊に參りまする際には、新嘉坡、古倫母、ポートセッド、馬留太を經て、英國の南部プリマウスに着したので、普通の航路で御座りますから、別段申上ぐる程の事もない、たゞ御聞に達しておきたいのは兵員の擧動である。

抑〻海軍の兵員は陸兵と異ッて、軍艦に乘ッて往復するのであるから、譬ば家を持ッて歩るくのと同樣で、一方には種々の操練をすると同時に、一方には艦を清潔に保存してゆかねばならぬ。從ッて事業が非常に多い、先づ一日中に就いて申しますると、朝暁天に起きて釣床を括ると、直ちに甲板を洗ひ、食事を終はり、金屬具を磨き、小銃大砲を手入れして、それから種々な操練やら、艦內の雜業にかゝるので、また日によると衣服の洗濯をする、破綻を繕ふと云ふやうに、すこしも休んで居るものはない。また操練の種類もなか〳〵多い、主なるものを申しますと、合戰準備、戰鬪操練、端舟軍裝、敵艦捕獲操練、陸戰隊操練、喞兵操練、水雷艇軍裝、水雷防禦網張方、溺者救助操練、防水操練、探海操練、火災操練、陸上火災操練等で、これを一週日に分けて敎へるのである。

殊にまた此度は日本國海軍を代表して行くので、我艦隊がはる〳〵歐洲に派遣さるゝのは、實に空前の事であるから、從つて歐洲人も、日本海軍々人の樣子は精しく視察批評するに相違ないから、我々の責任は重大であッて、操練等も十分練磨して彼等に笑はれないやうにせねばならぬ故、航行中の操練は目覺しい許りであッた。御承知の通り印度洋或は紅海の熱度とくると非常なもので、飛脚船の上等室で寢椅子に横になッて居ても耐へられぬ程であるのに、まして軍艦の中、甚しい時には夜半になッても百度からある、其中で毎日盛に操練する、殆ど一日も休まぬと申してよろしい程にやッた。或兵士が故郷にやッた手紙に「此度の航海は樂みと苦みの辛抱くらべに候」と書いたと云ふ事であるが、一語よく當時の狀況を穿ッて居る。併し妙なもので、私などはあまり壯健の方でもないから、身躰に障りさうなものであるのに少しも病氣をせぬのみか、反ッて強壯になりました。そこで私は避暑の術は身躰を多忙にするが第一であると云ふことを悟りましたので、貴女方にも避暑などに御旅行になるよりは、終日國家の利益ある事業にても御奔走になッた方が、遙に御身躰のためになると御勸告致します。活氣さへ中に燃えて居れば、存外人間の身は丈夫なもので、此度も五月六日即ち靖國神社大祭の日に、アラビア海の眞中で端舟競漕をやッた時などは、到底內地にのみ居らるゝ方の知るとの出來ぬ愉快で御座りました。其時私が左の如き軍歌を作りましたから、つまらぬものであるが、實況であるから御覧に入れます。

號砲空に轟けり　疾しや遲しや諸共に
端艇指揮が聲高く　「前へ」とかくる令につれ
十有四人のつはものは　いはほの如き兩腕に
櫂柄にぎり一齊に　波を開きて漕ぎだせり。
進め〳〵の樂の音は　艦橋上に吹き起り
水を渉りて底深く　睡る勇魚や驚かん。
時はさつきの朝日影　東も西も茫々と
雲に連るアラビヤ海　勝を爭ふ日の本の
ますらたけ男の雄々しさよ　御國の寶ほかになし
尚も勵みて汝が守る　軍艦旗をば輝かせ。
大君上に御在すなり　大君上に御在すなり。

實に帝國の軍人、否日本人は感心である、勇敢で柔順で縱令へ英國の兵士と比べても優ッて居ッても劣りはせぬ。これ皆日本魂の然らしむる處であるから、決して此精神を無くしてはならぬ。さてこれを養成するのは、主として幼時の家庭敎育にあるので、其責任は一に御婦人方にあると思ひますゆゑ、特に航海操練の非常に劇しかッたにも拘らず、我兵員は責任を重じ、欣々として勉勵したと云ふことを申して置きます。



（評議員男爵夫人　千家とし子筆）

奥村刀自の久々にて故里にかへり給ふとてよみ給ひし歌を見はべりて
評議員　子爵夫人　本多延枝子

うちたえし君かかへるをゆひをりてふるさと人はまちわたるらむ

又軒端の梅も咲つらんといへるに

うれしさに軒ばの梅もほゝゑみてかをりゆかしく君をまつらむ

新年海

あけわたるとしの始の初日かけはてなき海をてらすのとけさ

門松

あらたまるとしのしるしに松たてゝ門にも千代の色は見えける

新年　評議員　有島幸子

松竹をたてゝいはゝぬ家もなし御代の榮えのひさしかれとて

勅題

長閑にも明渡りたる海原のなみ路や春をはこびきぬら

いそかしき手ぶりもたえて海士の子か君か代うたふ春は來にけり

電話番町壹千三百三十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

◎海軍下士卒集會所の利益

海軍大尉　長尾耕作

海軍の下士卒が、外出外泊を許可せらるるのは、品行の最も善良なものが、隔日に夕食後から翌朝々食前まで、その他は四日に一回、六日に一回等と差等があります。彼等の望は一分間でも、永く外に居たいのでありまして、歸艦するにも、その時刻を計り、何時に通船を埠頭から出すといふことを定め、名々は自分の下宿から通船出發時刻迄に、埠頭に集合するのでありますが、下宿の下女に「何時に起こせ」と頼んだり、又は眼覺し時計を當にしてゐると、時としては歸艦時刻に後れ、僅少の遲刻であれば、說諭譴責で濟みますけれ共、或は一時間以上も遲刻しますと、小膽の兵士は、己の過失を悔ゆるの餘り、更に一層の罪科を犯すものがあり、又は歸艦遲刻のため罰せられて、行狀の等級を降され、自暴自棄と變じて、遂に前途を誤まるものもあります。是等は情狀に於ては、酌量すべき所があッても、法の神聖を保つためには、馬謖も斬らねばならないのであります。それが、下士卒集會所に宿泊してゐると、港外碇泊軍艦の通船は、何時に埠頭を出發し、又第何區の錨地に居る軍艦の通船は何時に出ると定めて、一々通知をしてありますから、その時刻前になると、當番の人が「何番の通船が出る」かを宿泊の兵員に知らせます、兵士はこの時に起床して、埠頭に行けば、決して歸艦の時刻に後れる心配もなく、或は早過ぎて、雨雪の中に佇立するなどのこともないので、この點は確に海軍下士卒が深く集會所の設立に謝して然る可ものと思ふのであります。又人の住宅に同居下宿すると、若し先方が營利的だと、義理にも、下宿料ばかりで平氣でゐる譯には行かない、時々は飲めぬ酒も飲み、好まぬ物も食ひ、幾分か是等飲食から生ずる利潤を與へねば、よし追ッ立てられなくとも、優待されることはない。又時に長途の航海に出發して、荷物の保管などを托しおくと、歸航の節には、先づ土產物の心附けもせねばならぬ、之は薄給の兵士に向ッて渠に既に過當の負擔であります、下士卒集會所の設立は、爲めに是等の冗費を輕減せしめ、一の土產物を持ち來らないでも、常に彼等を厚遇せんと待ち受けて居りますので、是れ亦下士卒は大に集會所に謝して然るべきものであると思ひます。日本服を着て散步して見たいとかの念は、下宿があるから起こるので、下宿の無いものは、決してソンナ念は起らないのであります。又一人下宿に籠城して居るも、つまらなく寂しい所から、他人の下宿に訪問する、他人は又自分の所に來る、それが度數を重ねて、茶菓を供するの代も相應の金高となります。是れ等は皆兵士の身分には過當の負擔で、下士卒集會所の設立は、根本的に、以上の弊を除去することが出來るのであります。下士卒集會所の利益は、實に海軍の風儀に大變動を來すこと、思はれますが、今日迄種々惡習のあッたのは、主もに周圍の人が養成したので、海軍社會では一日も早く惡習を脫せんと勉めてゐたのであります。吾人は海軍々人として、愛國婦人會の方々に、海軍にかゝる美擧の現存してゐる事實を披露するを得るのは、今後我が海軍が、益々盛運に向ふものたるを立證するのであると、密かに喜ぶのであります。

◎歐米女子教育の現況（承前）

文學士　下田次郎

露西亞の學校は、佛蘭西の學校と似寄ッた所があります。露西亞は專制の國であッて、民を愚にして政治をすると云ふ主義でありますから、小學校などは發達して居りませぬ。多數の人間は無智文盲であります、而して貴族が跋扈する所であるから、貴族の子弟には、結構な學校が澤山にあります。女子の高等學校のやうなものも、貴族の學校であッて、確かセントピータースボルクに七つかありまして、大きな校舍を有して居ります、ソレも佛蘭西流儀に、學校內に押籠めて外へ出さず、外界との交通を斷ッて居ります。ソレで貴族には隨分貧乏な人があッて、其の子女たる者が學校に於て、裕かなる生活をして教育された曉に、社會に出ると學校と社會との懸隔が甚だしきために、前に言ふた通り徒に思想ばかり高くなッて、力が添はぬ財力も添はぬと云ふ譯で、間違ひが多く出來ると云ふ話であります。又た上流社會の家庭には隨分紊れたものもあッて、さうして其の非行が少なくないと云ふことであります。巴里の上流社會もマア同じやうなものであります。

ソレから女子の、ジムナシンと云ふやうな、ものもありますけれども、小學校では齒を檢査して居ります、どう云ふものか、齒の惡るい者があると見えて、每週醫者が學校に來て診査して居ります。露西亞の女は是まで、大學にある講義を、聽きをッたのでありますが、今日では女子は大學以外に追拂はれて外に出て勉强して居ります。瑞西とか巴里とかへ行く。殊に獨逸の或大學には、露西亞の女が澤山來て居つて、高等の教育を受けて居ります、女子の醫學校と云ふやうなものも、別に大きな學校が出來て居ります。

芬蘭は女子の權力が非常に發達して居ッて、大學に於ても、男子と同じ樣な教育を受けて居りまして、選擧權も男女かはる所はありませぬ。芬蘭に於ては露西亞語と云ふものは必須科として課して居りますし、又芬蘭語は一種まるで變ッた、スラヴの語系に屬して居りますし、ソレと瑞典の言語と三つを習はしめらるゝと云ふことで、生徒の負擔はなか〳〵多いのであります。

瑞典に參りまするとと首府のストックホルムの如きは非常に發達して居ります。殊に名高いのは瑞典式の女子の體操が盛んでありまして上下共に體操には余程力を用ゐて居る而して其の中央體操場と云ふのは、就中盛んなものでありまして、歐米各國から觀に來る者が澤山あります。女子の體操敎員をも頻りに養成致しまして其の練習は外でもやりますし學校に往つても遣ります、て總の學校高等女學校なり小學校なりに於ても女は皆な體操に熱心であッて從ッて體操の時間も多くあります。

瑞典の體操は獨逸の體操とは少し違ひまして壁に格子のやうなものを造ッて仰向けに反ッたり體を左右に曲げるやうなことをしてゐます。又藤棚のやうなものを水平に吊したり又其の目の間を潛ッたり、又棒の上を歩いて身體の重心を保つ運動などをさせて居ります。又身體のわるい者には特別の體操を課してゐます。それから體操の種類を言へば隨分種々あッて或は年齡で組を別け其の組々て、種々の違ッた體操を爲し十分乃至十五分づゝて、入替り立替り遣りますから生徒が少しも飽きませぬ。

瑞典人は澤山亞米利加に往ッて居りまして殊に市俄古の如きは非常に多數の瑞典人が居ります。而して亞米利加の文明と云ふものが他國を經ずに直接瑞典に影響して居るやうに見へます。故に瑞典は案外に發達して居る、電話事業の如きは歐米を通じて、最も發達した國であります。（未完）

元旦　　評議員　中山幸子

あけぬとて浪しづかなる伊勢の海に
　としのはつ日のいまのぼるらし

かくばかりめでたきとしのあら浪も
　なくてすむこそうら安の國

あけぬとて浪しづかにもうら人の
　心安くもいはひそめたり

おのれの五十路になりたれは　　評議員　有島幸子

人並のことをもなさで年のみは
　つみて五十路となりにけるかな

三十五年のつごもりに

今年はと思ひしことのなかばだに
　なさで幾度けふにあふらむ

松上鶴　　東京府　會員　松下高子

みどりこき松のこずゑにかけとめて
　君か代祝ふつるのもろ聲

岩上龜

奧村刀自の講話を聞き　　香川縣　幹事　石塚千賀子

をさまれる御代のためしを岩の上に
　豐にあそぶ龜のひとむれ

奧村刀自に盟ふ

み軍のさきをあらそふ武士の
　勇みに增さる君がま心

數ならぬ遠山里のしづの女も
　君がみをしへいかでわすれん

新年海　　和歌山縣　會員　浦月子

外國のみなと〳〵も日の本の
　御旗なびきて年や立らん

同　　京都府　會員　花輪余志野子

日のいづる東の海にみちくらし
　けふたちかへる年の初汐

東京府　山田繁子

新玉の年の初日のかゝやきぬ
　みいくさふねのつどふみなとに

廣島縣　橋本豐子

あらたまのとしの初あみおろすとて
　いそへにきはふ朝ほらけかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論説

◎女子と年中行事

東京美術學校長　正木直彦

此一篇は舊臘廿四日女子美術學校に於てものせられたる演説の一節なり。年の始めの讀物として、ふさはしければ、此にかゝげつ。

女子と年中行事と云ふことでございますが、年中行事と云ふことは正月の元日からして大晦日に至る迄の間に、色々行ふ所の儀式であります。常に働いて居ります事の外に際立て、例へば正月の三ヶ日或は一月三十日の孝明天皇のお祭り、紀元節、三月の節句、五月の節句、九月の節句、神武天皇祭、天長節、冬至と云ふやうな、まだ其外にも色々儀式がありますが、之を年中行事と申すのである。是れは社會の事を能く心配する者には十分研究の價かある事柄でありますが、兎に角お祭りとか年中行事を嚴格に行はぬ人は、平常の行爲に於ても矢張り疎漏である。昔徳川家康が將軍になりまして江戸を開府して天下の執權となりました當時、其將軍となッてから初めての正月元日に、是までになかッたやうな大層華美な儀式をしたのであります。其時に、御承知の通り家康と云ふ人は極く質素を好む人でありますから、家老を呼んで斯樣に華美な儀式をするは無駄なことではないか、此正月の儀式に使ふやうのものは、それが濟んで仕舞へば何にもならぬものである、斯かる事に多くの金を費すは甚だ宜しくないと大層叱りました。所が其時の家老の曰く「平常節儉をして働くのは、斯樣に際立ッた切れ目〳〵に儀式等は立派に行ひたいからであります、儀式等を疎畧にするやうでは平常の事も必ず疎畧になります」と答へた。そこで家康も成る程と感心して、徳川家の儀式と云ふものはそれより非常に嚴格に行ふ慣例となッたと云ふことである。それが段々民間にも傳はッて、期節〳〵の儀式と云ふものは嚴格に守ッて能く行ッたものであります。それがため例へば正月になりますると、其日暮しの細民と雖も、必ず身分相當に新しい衣服を子供などに着せ、正月の祝ひの餅を搗いて祝ッたものである、どう云ふ裏屋住居をして九尺二間の軒の内にあッても、儀式は嚴格に守ッたのであります。さう云ふ期節になりますと、親達は子供の爲に心配して新しい着物を着せ、餅を搗き、誰もそれを普通のことゝして行はなければならぬことゝ思ッて居たのである。それ故に平常儉約をして働き、それだけの準備をして遊び樂しむ時と、勉勵する時とは明かに區分を立てゝ居たのである、然るに近頃になりましてから、さう云ふことは非常に疎略になッて、役人始め家に居ッても御役所へ御禮にも出ない人があり、又ゴロ〳〵として家に居りながら年賀の禮にも出ないで、旅行して居るなどと廣告する人がある、或は正月が二度あると云ふやうで、一方は新暦の正月を迎へ、他方は舊暦の正月をすると云ふので、業を休んで居る家があるかと思ふと、隣家では稼いで居ると云ふ有樣であるから、正月を迎へた方でも、近所では稼いで居るから新らしい着物を子供に着せるにも及ばぬ、不斷着の儘で濟まさうなど云ふ者もある。それでありますから、平常の時も祝日も同じ心持で、祝日儀式の時の用意にとて働く威勢も出ない、唯だだら〳〵と平常も暮して往くことゝなる。抑も是れか人間の倦み始めである、人間が極りがなく倦んで來ると社會が衰退する、故に際立ッた時には際を立てゝ愉快に過し、平常働く時は十分に働くやうにせねばなりません。

又儀式とか年中行事とか云ふ舊ひ所の事に付ては昔から爲來ッて居る慣例があッて、それは家々の家風もあり、又國々の國風もあるもので、今の新らしい學問をした頭を以て居る人は、一概に馬鹿〳〵しいと云うて輕蔑して仕舞ふ者があるが、それはよろしくない。之には一々面白い理窟のあることで、一概にさう蔑視すべきものではない、昔より由り所があッて傳はッて來て居る事故、總て舊來の儀式などは老人に聞いて能く覺へて置き、又後々に傳へて往くやうにしなければならぬ、さう云ふ事も矢張り女子の職分であらふと思ひます。

（下略）

（會員武村千佐子筆）

◎童話（つゞき）

海軍大尉　長尾耕作

○梨の核　一郎はどうしても丸藥を服むことを嫌ひますから、母は罐詰の梨子の片に丸藥を押しこみ「一ちゃん梨子をおたべ。」一郎は喜んで之を貰ひました。軈て母は「一ちゃん、梨子は甘かッたらう。」一郎は「母さん、あの梨子には核があッたから、核はすてゝよ。」

○汽船嫌ひの細君　汽船嫌ひの細君は、汽船の衝突や、沈沒を數へ立てゝ、友達に向ひ「子ー、あなた、こんなに海で死ぬ人が多いのに、何故あんなに汽船に乘る人が多いのでせう。」友達たる婦人は海軍將校の奥さんで、汽船大賛成家だのに、この一言を耳にしたので、目に角立てゝ「だッて奥さん、それなら病人は床の上で死ぬのが多いのに、何故皆さんは、夜になると床の上に寢るのでせう。」と流石に海軍將校の細君だけあッて負けぬ氣で答へた。

○船酔ひ　二人の婦人は汽船の一等室に乘り込んだ。其の一人は氣丈の婦人であッて、他の婦人に向ひ「だッて、御妊娠の身では仕方がありませんわ、汽車に乘れば切角出來たものをおッことすではありませんか、なに、十時間か十一時間か我慢なさい」と。船は海上に乘り出てたが、生憎、波が少々高いので汽船は動搖を始めた。一婦人は船酔ひを起こし煩悶しつゝ、「奥さん、私は頭が水の上を泳いでゐる樣な氣持ちがしますわ、船は沈みはしませんか。」氣丈の婦人は「大丈夫ですよ、あなたのおつむが、水の上を泳いでゐれば、あなたは沈む氣遣ひはありますまい。」

○涙の分拆　化學家の夫人は近ごろ最愛の一子を失ひましたので、朝に夕に小兒の位牌に向ッては泣いてゐます。夫がそれを見て「幾ら泣いたとて、蘇生もすまいし、もう泣くのはよせ。」夫人は涙を雨の如くに降らしつゝ「あなたはそんなことを……」と云ひ終らぬに、夫は「涙なんッてものは余計なものだよ、おれが涙を分拆したら、その中には燐酸石灰がすこしと、鹽化ソヂユムが少しと、水としかありはしない。」

新年海

あらいそのなみうちきはになく鶴の聲のうちにや年はたつらん　岐阜　精松貞子
新玉の年の初風眞帆にうけて沖ゆく舟のかけののとけさ　鹿兒島　相德みつ子
朝なきの海原きよく年立ちて磯山まつに初日さすなり　埼玉　石塚千年子
打よする波もしつかに年立ちて島山松にたづそなくなる　石川　中野よそ子
春めきて浪風もなしとしたては海のこゝろも長閑けかるらん　大分　高山ます子
たちかへるとしのはしめは海はらの波もしつかに千鳥なくなり　愛知　田中くに子
年波のしまつかにたてる海原に初日のとかにさし渡るなり　青森　橋本つき子
つるもまひかめもうかひて遊ふらん年たちかへる磯のいはれに　香川　荘司八百子
ひむかしの海くれないにいつる日はのとけき年の光なるらん　兵庫　鷲尾とみ子
わたつみのおきの帆かけにさしそめてとしの初日の光さやけし　山口　諏訪みわ子
あら磯の松ふくかせもよろづ代をよばふにたりとしの始は　三重　中谷加代
波の音しつまりはてし海の面にまつをろかみぬ年の初日を　新潟　前崎照子
波の音も松のひゝきものどかなり荒磯さきに年やたつらむ　岡山　佐藤勝子
もろこしの海まて波の靜かなり君か大御代の年の始は　大阪　酒井露江子
朝しほのひかたにたつの聲たかしいかにのとけき年立ちぬらん　山形　綱代きみ子
和田の原つりする海士の舟たえてとまやの軒に御旗かゝやく　山口　杉靜子
海原に祝の砲の音すなりみいくさふねに年いはふらん　山梨　小尾たま子
朝日かけきらめく海にのとかなるとしの初風ふき渡るなり　宮崎　四屋保子
和歌の浦波も靜かに年立ちておきにきこゆろあしたつのこゑ　神奈川　須山規矩子
和田の原にほふ朝日をまほにうけて年の初荷なつみいたす見ゆ　京都　福田きぬ子
春さへもたつかとそ思ふ和多の原あまりのとけき年の初日に　新潟　渡邊まさ子
外國の海も皇國の軍艦御旗かゝけて年をほくらん　東京　讀人しらず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家庭敎育(つゞき)

一才學藝能に通じたりとも、其心に誠實を缺き、浮薄虚僞の言行ある者は貴ぶべき人にあらず、されば、幼少の時より、此訓練は極めて大切なり。

一虚言は重き罪惡なり、決して之を輕視すべきものにあらず。然るに、世上の母は、小兒に向ひて「それは虚言でせう」など、輕々しく云ふ者多し、心なき振舞にこそ。苟且に發する罪なき虚言にても、成るべく之を禁ずべし。

一違約も亦虚言と同じく、いたく誠實に反する行ひなり。幼少より堅く約束を守るといふ、信義の訓練に努むべし。

一仁慈即ち思ひやりありて、物事深切なるやうに訓練すべし。婢僕に對し、粗暴の振舞なく之を愛し、犬猫を虐待せざるやう、又は蟬・蜻蛉など之を追ひ捕ふるは妨げなきも、殘酷なる取扱は嚴禁すべし。

一何事に限らず、出來得る限りは、兒童をして自ら之を辨ぜしめ、以て依頼心を生ぜしめざる様注意すべし。

一男女に限らず、兒童には勇氣を鼓舞し、快濶の氣象を養成せんとを、日常務むべし。然れども、能く小勇を誡め、粗暴に流れざる樣心すべし。

一總じて監督嚴密に失し、殺伐粗暴の罰を加へ、或は怪異變化の談を聞かせなどするは、兒童の心身を萎縮し、無益の恐怖心を抱かしめ、大に害ありと知るべし。

◎家計收支の實況

飛驒國高山町 會員 某

追々皆樣の御報告拜見仕り、御蔭を以て會計上大に便を得申候段、深く謝し上候。

〇明治三十五年十一月分

一家族三人 但し夫婦食客一人、

收入

一金八拾四圓貳拾五錢

內譯

金參拾四圓六拾五錢 俸給 本月分

金四拾九圓六拾錢 出張 旅費

支出

一金六拾五圓六拾九錢

內譯

金參拾圓 良人渡し

金五圓 米代

金參圓 魚肉費

金壹圓 交際費

金壹圓五拾錢 小遣費自分食客二人分

金參拾錢 郵税

金壹圓六拾五錢 石油一罐代

金拾圓 國元亡第三回忌に付供養料として兩親へ送呈

金參圓 家賃本月分

金貳圓七拾五錢 賄費

金壹圓六拾九錢 雜費

金壹圓五拾錢 圖書費

金貳圓 被服費月割

金壹圓參拾錢 町役場納税

金壹圓 良人事務手傳として特に自分受

差引殘高

一金拾八圓五拾六錢

內

金拾圓 銀行預け

金五圓 良人貯金

金壹圓 自分貯金

金貳圓五拾六錢 後月繰越高

右の外

一貳拾五圓 良人赤十字へ入社一時金

これは良人の貯金より支出いたし候 私も自身の貯金出來次第入社可致心組に候

旅費も月によりて大に異り候へ共、現に角 山間の悪路にて、汽車は申すに及ばず人力車とても心に任せず、大かたは徒歩に候故、他地方よりは隨分か殘額を生し申候。留守の者も良人が旅行の困難を思ひて出來得る限りは節儉致し居候。

薪炭額は一月二月頃に、半年分又は一ヶ年分位づゝ買求め候故、月々の計算には入り不申候。諸物價は隨分高價、魚類は殊くばかりに候、乍他事此頃は雪四五尺もつもり中々奇觀にこれあり候。

十二月廿九日報知

評 飛驒としいへば全國中にて名たゝる山國なり。其のけはしき山坂を跋涉しながら、節儉して、旅費を使ひ遺こさるゝ良人あり、家には僅に俸給の三分の二にて取賄ふ主婦あり。斯る人の永く此の地に住みて、人々を敎化されんか、飛驒の山中に一の極樂郷を見るに至るべし。

◎家計收支の科目概要

東京 會員 某 女

貴紙上に於て家計收支の實況を發表され 家政上有益なる讀物と信ず 總て家政の整ふは正確に費目の記帳を爲し 前後相顧みて無益の費用を省略するにありと信ず 凡そ一家の經濟には收入を基として 支拂の豫算を立て 一國の經濟には支出を基として 收入の豫算を立てるが經濟上の原則なるが 一家に於ても年の始め又は月の始めに於て其年又は其月の支出を豫定し置き 之を標準として支出をなせば遺漏なく家政も整ふ事と信ず 付ては如何なる標準に依て之を割出す可きか 又如何なる方法にて記帳すべきか先づ支拂の費目なるものを立て之に割當てさる可からず 其費目も各家に於て多少の差違あり 一樣には定められざるも 愛國婦人新聞紙上に報知せられし實況を基とし左表を立案し會員の君達に謀る 何卒相當の御批評を望す

項	目	節
第一項 飲食費	第一目 米代	
	第二目 副食物費	野菜、鳥魚 肉類、干物類、
	第三目 味料	醬油、味噌、砂糖、
	第四目 薪炭費	薪、炭、
	第五目 酒代	
第二項 被服費	第一目 衣服料	主人、主婦、家族、
	第二目 裝飾費	小間物類、蝙蝠傘類、
第三項 住居費	第一目 借地料	
	第二目 借家料	
	第三目 修繕費	
	第四目 器具費	諸道具類
	第五目 雜品費	消耗品類、日用食器類、
	第六目 庭園費	
第四項 租税及特定義務契約費	第一目 租税	地租、家屋税、其他、
	第二目 國許送金費	祖父母、父母
	第三目 給金	婢、僕、
	第四目 保險金	生命、火災、物品、
第五項 衛生費	第一目 水道費	
	第二目 藥費	
	第三目 洗濯費	
	第四目 散結髮費	
	第五目 湯費	
	第六目 衛生組合費	
第六項 敎育費	第一目 圖書購買費	
	第二目 新聞雜誌費	
	第三目 筆紙墨文具	
	第四目 學校諸費	授業料、其他、
	第五目 敎育積立金	
第七項 交際及慰神費	第一目 車代	
	第二目 贈物費	
	第三目 宴會費	
	第四目 郵便電信料	
	第五目 慰藉費	
第八項 點燈、燃料費	第一目 石炭費	
	第二目 瓦斯費	
	第三目 石油費	
第九項 雜費	第一目 小遣費	主人、主婦、家族、
	第二目 勞力報酬費	
第十項 臨時費	第一目 婚姻	
	第二目 葬祭	
	第三目 臨時娛樂費	

童話

みちばたの石

香雪女史

むかしある所に、一人のやもめ住みけり。この女、歌詠み手書くこと優れて愛たかりければ、あたりの人、女博士とつけて、敬ひ親しみ、手本を請ひ、歌の添削をも頼みなどしけり。あるゆふべ、小童三人、このやもめが門をよぎりて、前なる坂路にかゝりけるが、道のたゞ中に轉べる石あり。さきの一人は、物語うちしつゝ行く程、あはや、此石に躓かんとして、心づきければ「あなあぶなや」とつぶやきながら、行き過ぎけり。今一人も、また云ふやがても、足の爪さきをつきかけて、爪をはがしければ、血少し流れ出でぬ。懷ろ紙を引き裂きて、傷所を卷きなどしつゝ憎き石かなと舌打ちして、辛うじて、徐ろに歩みはじめぬ。後の一人はやゝ後れて、この坂路にて、やうやう前の二人に追ひつきけり。さて、其石を見て「あらあぶなや、斯かる所に石こそ轉び出でたれ。今一歩を過たば、なま爪剝がしつべかりしを、いと危くもありしかな。」とて、諸手して、押し轉ばしつゝ、かたへの溝に打ち入れつ。「斯くなし置けば、後に來ん人の、過ちはせじ。能くも、暮れ果てぬ程に來つるよ」と獨言して、登りつきたる石坂の上に、此ありさまを見おろし居たる、前の童、後の童に聲をかけて、「さても御身は心よき人かな。我れは、斯くなま爪剝がしつるが妬さに、後に來ん人にも、躓かせて、腹をいんと思ひつるものを惜しくも、取り除けつるよと、云へば、この童苦笑して「人惡くも在しけるかな。」と云ひけり。其さまを垣の內より伺ひ居たりし、彼のやもめ、其所に來合せつる人にむかひて、「あの童等がしわざ見給ひつや、前の童は、何心も無く、たゞおほやうなる性なり。彼れは、善き事もせず、惡き事もせず、のどかに世をぞつくすらん。次なるは腹黑き者なり。こは必ず、まさなき行をして、汚れたる名をや世に流すらん。後なる童こそ、いと思ひやり深く、なさけ有る者にはあれ。行末頼もしき人にこそ。必ず傑れ者にぞなりぬべき」と云ひつるを客も「げにげに」と打ちうなづきて聞きけり。後はたして、やもめが言の如く、此三人の童、一人は事無くて世を盡し、一人は惡き行ひをして刑にあひ、今一人は、良きつかさ人となりて、國民に仁政を布き施しけりとぞ。

(完)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷録事

◉元旦の宮廷　元日は風なく暖かく平和の新年なりしか今大内山の御模様を承るに當日午前四時に式部職出仕して御殿を飾り神嘉殿南庭の幄舎に贅薦を敷き御屏風を廻し燈臺を供へて出御を待つ五時三十分陛下出御四方拜の御式あり更に伶人奏樂の中に賢所皇靈殿神殿に御玉串を奉らせられ夫より七時三十分晴御膳の式あり午前九時三十分兩陛下出御皇族並に親任官以下の年賀を受けさせられたり

◉二日の宮廷　本日は午前九時より岩倉掌典長始め各式部官は宮中に出仕し御殿の御装飾を行ひ伶人の奏樂中に賢所、皇靈殿、神殿御開扉神饌を供し岩倉掌典長の祝詞あり十時に當日の御祭典を終れり　兩陛下の晴御膳は午前七時三十分常の御殿に於て召させられ當日は廣橋伯爵以下の參賀を受けさせられたり

◉三日の宮廷　本日は元始祭當日に付き午前九時より御殿の装飾を奉仕し岩倉掌典長以下一同着床伶人悉天樂を奏し神饌及御幣物の傳供あり各親王殿下始め大臣公爵等着床同十時出御あらせらるべき筈の處御都合により岩倉掌典長に御代拜仰付られ御代拜は　賢所　皇靈殿神殿に順次御玉串を奉り御告文を奏す　皇后陛下御代拜は吉田權掌侍に仰付られ引續き皇太子殿下同妃殿下の御代拜及親王以下の拜禮ありて一先つ閉扉午後一時より更に伯子男以下百八十餘名の拜禮ありたり

◉四日の宮廷　本日は政治始めの御當日に付き桂總理大臣を始め各國務大臣内閣に參集し　陛下には德大寺内大臣以下を從へ出御内閣書記官長代理より先づ神宮御無事を奏し奉りたるに　陛下は立御の上聞し召され次に各廳の事を奏上し一々天裁ありたり

◉五日の宮廷　本日は新年宴會の當日に付き兩陛下には豐明殿に出御あらせられ一同に左の意味の勅語を賜はりたり

朕新年の佳辰に當り内外臣僚と共に此宴を催にすを喜ぶ

桂主相は左の意味の奉答をなす

新春の佳節に際し本日此の餔宴を賜り且つ優渥なる勅語を拜す臣等恐懼感激の至りに勝へす臣僚一同に代り謹んて聖壽の無疆を祝し奉る

次に公使總代の奉答あり　陛下には玉盃を擧げさせられ各皇族公使等に暫時御辭を賜はり零時五十分入御あらせられ當日陪宴者は百十四名なり

◉六日の宮廷　本日は御講書始め當日に付き午前十時宮中鳳凰の間に於て　兩陛下出御御講書始めを行はせられ當日進講の題目は左の如し

一古事記　伊邪那岐命得三貴子之條　東宮侍講　本居豐穎

一西班牙國フェルヂナンド及イサベラ女王朝廷の歴史（閣龍の請願）　文事秘書官長男爵　細川潤次郎

一中庸首章三節　女子高等師範學校教授　南摩綱紀

寫眞附錄の人名（寫眞面の順序）

小池みつ子	長谷川さい子	齊藤せん子
宮本くら子	宇津木ひろ子	渡邊いね子
牧田ます子	濱田すて子	仁杉歌子
田村彰子	谷森みや子	千家俊子
花岡ぬき子	佐藤靜子	麻生[illegible]子
大住りつ子	佐藤猶子	南郷柳子
吉井盈子	進利子	中山幸子
田中とみ子	保利ひさ子	濱尾作子

特別廣告

來る一月十四日麴町區九段阪上偕行社に於て年首互禮會を兼ね評議員總會及東京支部幹事會を開き候に付御來場被下度候也

一月　愛國婦人會本部

◎愛國婦人會記事

◎評議員會　本年一月中の日割は左の如し

一月廿一日（第三水曜日）第三の組

一月廿八日（第四水曜日）第四の組

◎新年の評議員總會　別項廣告の如く來る一月十四日午後一時より九段阪上偕行社に於いて評議員總會及び東京府幹事總會を開き、會長理事幹事長評議員幹事諸氏一堂に集り、兼て年始互禮會を開く都合なり。

◉熊本支部會の景况　本會熊本支部に於ては、去月十八日赤十字社熊本支部にて午後一時より第二回幹事會を開きしか師團よりは清田衛戍病院長三善藥劑官及び廣橋覺讓、篠方典、矢毛智雄、戸張瀧三郎、福山正登の諸氏縣廳より河内山熊太郎、德永五太兩氏出席あり又會員には幹事長德久張子、副幹事長飯田政子以下各幹事會員六十有餘名の出席あり廣橋覺讓師、篠方典師の演說三善藥劑官水に付實例を示し有益なる講話あり夫れより會員誘導上等に付協議をなし午後四時散會せり因に云ふ該支部は會員數已に二千人に及び日に增し隆盛に趣きつゝありしと云ふ

◎愛國婦人會々員勸誘日記の一節（其五）

三重縣、桑名町　會員某

明くれば四日雨未だ晴れず父は前日の疲れにて床を出で給はずわらは早朝又行きて勸誘せんと心に急げども父は案じたまひてか今暫らく雨の晴るゝを待てよと止めたまへば敢て背き難くて父命に從ひ待つゝありしに十時過ぎし頃雨漸く晴るゝ模樣なれば甥を伴ひて宿を出で行くこと十三町計り又山形にして細き板二枚を渡せる橋あり甥は曰くおばさん危ないよとわらは應えて今日は私が氣を付けて行くから安心して、よと云ひつゝ渡りしにまたすべりころびし時の可笑さよ實際馴れぬ愚かさ我ながら愛想も盡きし不躰裁誤り落ちなば下は深き川なり漸くにして外平喜新田白木信氏に至り刺を通ずれば父君出でゝ迎へらる來意を語り懇ろに勸誘を試しに即諾白木信妻ますへと記名せられたり十二時二十分辭して半町計りを過ぎ村長白木逸次氏を訪へば主人不在役場にありと道を還して行くと十五町余西對海地新田役場に至りて尋ねれば又不在なり止むを得ず一町計りを過ぎ西對海地新田白木左郎九氏に至れば主人出でゝ迎らる即ち來意を告げ懇に入會を勸めしに諾白木左郎九妻いくと記名せられたり三時廿分全家を辭して歸路に就き早く父に入會者の氏名を告げばやと心は急ぎて近き道をと歸りしに道路狹くして一層泥濘下駄は沈みて足運ばず據なく洗足にて歩めば馴れぬとてつるくすべりなほ進み得ず危くも辿りくて三時五十五分宿に着き足を濯ぎて先づ父の枕邊に至り入會の氏名を告ぐれば父は欣然として滿足の笑みをたたえられし嬉さに身の疲れをも忘れたりき

五日快晴早朝わらはは亦白木逸治氏を問はゞやと姪を伴ひて家を出て十八町餘を經て全家に至れば未だ歸りまさずと即ち道を還して又た村役場に至りしに昨夜桑名に一泊せられしか未た來給はずと終に面會を得ず遺憾ながら宿に歸り午後一時姉家を辭して父子相携えて桑名に濟し午後四時半宅に歸りぬ

（完）

新年の詞

御歌所寄人　本居豐穎

あらたまの年たちかへりて、明けゆく空のけしき、昨日にかはりたり、とは見えねど、ひきかへ、めづしき心地す、と何がしの法師のいへるは、うべにて、たかきみじかき、老いたる若き、そのほどくにつけて、樂しみ、うち興じたるさまは、いつのあしたかは、かはらむ。さるは、人の上のみならず、門の松竹、しづかなる朝風にそよめくも、君が代を千代とうたふこゑか、ときこゑ、小床の梅柳、うるはしき日影にいろめきたるも、家人がよろこべるゑまひ眉引を、もてはやしがほに見ゆれば、軒の雀も、千世とさへづり、籠の鶯も、百よろこびを告ぐるなるべし。かくて、一年のほどの、心がまへは、今日の一日にこそ、とさかし人だちは、いふめるを、いかなるにか、我が心の、そゞろにうきて、何事を、思ふともなく、空しきやうなるは、はやう、年と共に、をさなごゝろの昔に、たちかへりたるにやあらん。

●大坂市の歌

一柳芳風作

（一）霞こめたり生駒山、三州の野のすゑ遠く、大厦高樓並み立てる、あゝ麗はしき大阪市
浪は靜けし茅渟の海　造りたてたる大都會　浪華の春は夢ならず

（二）三韓のふれ矣のふれ、みつの濱松長しへに、行交ふ千舟もゝ舟の、あゝ賑はしき大阪市
泊りはてけむ大伴や　緑の色のいやましに　檣緋もはさぬおほ江港

（三）天皇高殿に昇りまし、その御惠ないまも猶、靈の飾はやがて此の、あゝ賑もしき大坂市
民の竈を見ましけむ　しのぶに餘る煙煤の　民の富なりくにの富

（四）それ勤儉の月のかげ、尙武のはなは金城の、げに此花とこの月ぞ、あゝ勇ましき大坂市
高津の宮の秋に見よ　天守の春の色に知れ　市民の驕す旗じるし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論梗概

◎三輪田眞佐子女史の「婦人と躰操」 目下の女子教育は智能の啓發に於て得る所あるも、雖性の修養と身躰の養成とに於ては得る所ありと云ふべからず、殊に手藝を學ぶものに在ては、終日絶て運動を試みざるは事實なり。國家の前途を憂ひ子孫の幸運を希ふものは、速にこゝに着眼して此過ちを矯めざるべからず。躰育について考ふるに、躰操は單に身躰の强大に影響するのみならず、先づ國家の生産力に大關係を有すと謂ふべし。速に老朽して無爲寄食するものと、久しく健全にして人事に盡すものと、其國家の生産上に於ける效果如何は言はずして明なり。次には强健にして活潑ならば外侮を防ぐに足るべし、元來女子は男子に玩弄さるゝ傾きあり、之は女子の因循痴鈍の行動あるに由る、故に女子は須く威ありて猛からざる風采あるべし。然れとも活潑と粗暴とは似て非なるものなれば區別せざるべからず、粗野暴慢の女子は却つて侮蔑せらるべし、而して眞の活潑の氣は全く躰軀の强健より來るものなり。夫の躰操を以て女子の姿勢を害し、氣質に變動を及ぼすものと信ずるものは、女子の本性と人類の目的とを知らざる陋見のみ。云々　（女學世界）

◎下田歌子女史の「娯樂と遊戯法」 家庭教育に於て最も影響を及ぼし、小兒を感化するに最も必要なるものは遊戯なり、故に遊戯は一家の和樂を媒介し、兼て小兒を善に導くべきものを選ばざるべからず。凡そ圓滑なる交際、親密なる友情は談笑の裡に自ら成り立つものなれば、社會の娯樂は成るべく多數の人の集つて樂むとを得べく、然も其間に社會の風紀を矯正し得べきものならざるべからず。野蠻半開の國に在つては、其遊戯娯樂は劣惡にして啻に一般の風紀を混濁ならしむるのみならず、個人の心神を毀損すると甚し。故に又娯樂は家庭に在ても、社會に在ても公々然として衆人稠坐の間に爲すを得べき、淸く美しきものならざるべからず。即ち家庭の娯樂は高尙なる文學音樂の如きものにして、日本國民として目下最も必要なるは躰育に有益なる娯樂なり。英國にては殊に此種の娯樂を奬勵し、國民一般も亦之を好めり、即ち各種の戸外遊戯にして乘馬、自轉車乘、短艇競漕及びテニス等の快活なる遊戯是なり。從來我國人の娯樂は、少數の人々一室に集ッて遊ぶに在り、之は漸次改良して活潑にして壯快なる戸外遊戯を行はゝ、躰力を養成し兼て國民の元氣を旺んならしむるを得べし。又往昔我國には歌合せ、扇あはせ、繪合せ其他文學上の遊戯甚多かりき、是皆高尙優美にして女流社會の娯樂、家庭の娯樂として適當なるものなれば、今日之を再興するも可ならん乎。唯此種の遊戯は美術の意匠を競ふの結果、自然奢侈に流れ文弱に陷るの弊なき樣注意すべきなり。要するに國民の躰力を增進すると共に、强固なる精神を養成するとを主眼として、相當の遊戯娯樂を奬勵するとを今日の急務なり。云々（婦人界）

◎ハワート孃の「子女の敎養」 先づ小兒の健康を保つには、新鮮なる空氣と十分なる睡眠と、日々の入浴と、種々有益なる遊戯をなすとを必要とす、而して食物は餘り濃厚なるものを多分に與ふべからず。運動遊戯中に注意すべき事は、其間決して他方に眼を觸れざる樣、熱心に之に從事する樣敎ふるとにて、是は最も必要の事なり。又平素餘り歩行する習慣を養はずして、而も遠足運動とて一日中に十哩も運動せしむる抔は、頗る身躰を害するものなれば注意すべき事なり。次に小兒には不規則なる習慣を養ふべからず、起床食事散歩等の凡ての時限を一定して、規則正しく行はしむべし、是は小兒の道德心に影響すると頗る重大なるものあればなり。又玩具は餘り多く與へざるを宜しとす、何となれば小兒若し玩具に不十分を感ずれば、自ら工夫して之を作るに至り、自然其智育上に益する所少からざればなり。又小兒には、物を人に與ふるとを悦ぶ樣、人を哀み同情を表する樣なる心懸を養ふを必要なり、是れ小兒の克己制慾の心を養ふに最有効のとなり。其他不潔不整頓の惡習を除去し、又動物昆虫類を虐待し殺傷するを抔ば、斷じて之を禁せざるべからず。又、最も愼まざるべからざるとは、小兒の面前にて無益の雜談又は他人の惡口なとをなすと是なり。小兒は一向事物に注意する所なき樣なれども、實は然らずして自然是等の惡習を養成せらるゝものなれば、其面前にては必ず教育談或は偉人傑士の實譚等、有益の事を談ずべし。又、小兒を育つるに缺くべからざる事は家庭が常に愉快を以て滿たされ居るとにて片時も不愉快の内に置く時は精神身躰共に其發達を害せらるゝものなり。又小兒に自由を與ふると同時に過失を劇しく罰せざるをよろしとす。又約束を重んじ祕密を守るとを敎ふるを頗る肝要なり。云々　（國民新聞）

◎雜報

◎東京音樂學校 同校の景況は前號にも記載せしが尙詳細の事を記さんに昨年末の調査によれば、現在教員内國人五十二名、内教授二名、獨國留學、外國教師五名、生徒總數三百八十八名にして、研究科十四名、本科四十五名、豫科三十名、甲種師範科七十名、乙種師範科二十一名、選科二百八名あり。研究科は、聲樂、器樂、作歌、作曲の四部に分ち、同校卒業生、若くは之と同等以上の學力ある者をなして、更に其專門學科の學術技藝を攻究せしめ、本科は、修業年限三ヶ年にして、聲樂、器樂、樂歌の三部に分ち、聲樂部は、唱歌、器樂部は、ヴァイオリン、ピアノ、オルガン、其他各種の管絃、樂器(日本器樂は等)樂歌部は、作歌、作曲を專門として、學修せしむ、豫科は、修業年限一ヶ年にして、本科に入らんとする者の爲めに、豫備の學科を授く。甲、乙師範科は、共に音樂教員養成の目的にして、甲種師範科は、修業年限三ヶ年とし、中學校、師範學校、高等女學校教員志望者を、乙種師範科は、修業年限一ヶ年とし、小學校教員志望者を入學せしむ。尙ほ同科は、甲乙共に、授業料を要せず、學習上必要なる圖書、樂器は總て貸附し、甲種師範科の生徒は、官費、私費二種あり。官費生には、學資として一ヶ月金六圓乃至八圓を支給せらる。選科には、隨時入學し、各自志望の學科を選擇して之を修むるを得、授業時間は生徒の便宜により午後三時以後八時迄は教授せらるゝ故、同科生徒中には小學校、中學校、高等女學校の生徒は勿論、大學の學生、其他紳士淑女ありて、入學志望者の願書は、實に百餘通も堆積しあるとの事にして、現今は專ら神田區一ッ橋通町同校分教場に於て教授せり。同校にては、本年四月入學せしむべき、甲種師範科生徒、官費、私費共、若干名目下募集中にして、願書差出期限は、二月十六日、入學試驗は三月二日より、同校内に於て施行す。昨年三月、同科規則を改正して、官費生を置き、五月始めて生徒を募集したるに、志望者百三十二名にして、内入學を許可せし者、官費二十六名、私費四名、其修業樂器は、オルガン二十四名、ピアノ六名、又撰擇科目中、國語志望者二十五名、英語志望の者九名なり、尙ほ昨年九月豫科、及乙種師範科生徒を募集せしに、志望者豫科に七十五名、乙種師範科に八十名、内入學を許可せし者は、豫科二十八名、乙種師範科二十一名ありたり。

◎東京府女子教育會 東京府女子教育會にては來る十八日より毎日曜日三時間づゝ兒童心理（高等師範學校教授文學士松本孝次郎）料理法（女子大學講師赤松峯吉同菊子）二科の講習をなす卒業期は三ヶ月間なりと云ふ。

◎女子敎育文庫の設立 高知市なる北岡成朔氏等の發起に係る同地社會文學會は女子智德の修養家庭社交の改善に資益する目的を以て見出の如き文庫を設け義務教育年令以上の女子求覽者に對し無料を以て圖書の貸付を爲す由

◎慈善新年會の景況 時事新報社の催しにかゝる、同會は、去にし四日、歌舞伎座に於て施行したるか、多くの慈善家の寄附もあり、來會者は豫定通り、午前八時頃よりどし〳〵詰掛け、午前九時に奏樂と共に、潮田主任、開會の辭を述へ、君が代を三唱し、次に談話を爲し、同會催しの爲めに作りし、新年の歌の唱歌を、一同唱へ、夫れより餘興に移り、手品、獨樂廻し、等あり、夫れより雜賞の饗應あり、午後には、落語、手品等の餘興あり、各兒童は慈善家の寄附にかゝる、土産物を貰ひ受け、千餘人の子女は一同快樂なる一日を送りて、散會せりと云ふ、尙同日迄同社に集まりし義捐金は、九百六十四圓餘にして、人員四百三十二名ありたりと云ふ。

◎善行彙報

香川郡木田郡奥鹿村大字鹿庭　鎌倉みか

資性温良母に事へて孝順、又克く弟を撫育す、母常に多病家計素より貧し、岡山花畑紡績會社の職工となり、獨立賃役些少の所得を母家に贈り、以て生計を支持す。母の病愈重患に陷り、坐作自由を欠くや、暇を請ふて家に歸り、夙夜牀褥に侍し衣帶を解かず、承歡慰藉總に到る。又自ら勞苦勤儉僅かに得る所を蓄へたる錢財を、湯藥醫治其他諸費の資に供し、以て母弟を給養す。其病革まるに及んでや、撤宵母を抱き病軀を温む、又夜闌冷水を被むりて、一意專心平癒神佛に哀禱するが如き、熱誠奉養具さに意を盡さゞるなし。其終に起たざるや厚く葬祭を營み、日々香花を位前に供し、之れに事ふる尙ほ生前に於けるが如し。又不具の弟に食物を哺し、或は便溺に、或は湯給に、保抱擁護し且つ纖弱婦女の一手を以て、辛苦勤勉一家を經紀する等、隣里其至行を賛歎せざるなし、諭に奇特とす、仍て爲其賞金貳圓下賜候事。

明治三十五年十二月十六日
香川縣知事正四位勳三等　小野田元熙　印

北豐島郡尾久村大字上尾久　齋藤濟吉母　齋藤以農

資性温良齋藤紋次郎に嫁し家素と貧困夫を扶て耒耜に服す後夫不治の病に罹り益々貧困に陷も毫も屈撓せず看護の傍ら幼孩を撫し晝は賃役に庸れ夜は草鞋を作り或は田螺を拾ひ草を摘む等勞勤の狀備に艱楚を嘗め衣食を節して湯藥甘旨を侑め慰藉到らざるもの無し遂に起たず追悼甚だ切なり又齡八十を超え眼疾を患ふるも其賴る處なきを歎て之に孝事し又能く子女を訓育し一家を保持すると十有餘年一日の如し郷閭其至孝を稱す洵に奇特とす依て其賞として金八圓を下賜候事

明治三十六年一月四日
東京府知事正三位勳三等男爵　千家尊福　印

東京市小石川區小日向清水谷町　紙形勝藏

資性温良幼にして父を喪ひ家道衰退母子離散して商家に傭はれ一意家名の興復に志し精勵して精勤す不幸にして主家破産解傭せらるゝ意を決して僅少の資に賴り市内に行商し刻苦辛勵遂に家を興し母を迎て孝養を盡し承歡怠らず其病に罹るや日夜病床に侍し自ら汚穢を滌ぎ藥餌甘旨奉養具に到る洵に奇特とす依て其賞として木杯一組下賜候事

明治三十六年一月四日
東京府知事正三位勳三等男爵　千家尊福

◎英國婦人の服裝 日本と英國とは、富の點に付ては、比較すべからざる程なれども、一般に英國婦人は、日本に比して、質素にして驕奢ならず、朝と正午との間に、一度着替へを爲すも、他所往きとて別に着替をする事なく、其儘婦人會にも出席し、訪問にも往く故に、餘り派手なる服裝をすれば、品格卑しとて輕蔑せらる。又た日本と反對の點は、小女か淡泊なる服を着し、夫人が華美なる服裝をなすとにて、小女は多く白衣を着るを常とす。

◎英國婦人の食事 日本人は外國人が多く肉食をするものと考ふるも、決して然らず、毎日一度は肉食せざるべからざるも、二度は多きに過ぐると云ふ程にして、甚だ質素なり。一週間分の消費物は、多く土曜日に於て、市中に至り買求め、買ひ整へたる物を、皆押入れに仕舞ひ置き、其日の要るだけを、主婦が出し與ふる仕組にて、若し押入れ等を、不注意に開け放し置く時は、主婦は下女に對して、不注意なりとて叱責せらるゝと云ふ。

◎英國婦人の訪問と客扱ひ 訪問は急用の外は、午後三時より七時までの間と定り居り、特別の招待を受けたるときの外、五分より、十五分位にて、決して長居をする事なし、日本人は平日無沙汰なる代り、長居すれども、英國人は、無沙汰せざる代り、長居する事なし。客を招くは、飲食を饗應するよりも、談話を主とし、談話の種類も、品のよき、平易なる事柄に注意せり。

◎英國婦人の出納 金錢の使用收授は、甚だ嚴格にして、上流の人は勿論、親子の間柄にても、自分の出すべきものは出し、取るべき分は取るなり。友人同志と宴會に往きても、必ず割前を出し、夫れを取らねば、反て禮を欠くとせり。婦人と男子と、同道の時は、男子の支拂に屬す。

◎英國婦人の職業 最近の統計に依れば英國婦人の學校教師たるもの十二万三千九百九十五人、畫工千百八十人、彫刻家五十四人、醫者及び藥劑師三万七千九百十人、新聞記者及び著述業四百五十二人、書記其他役所出勤者二千二百六十人、これ英國に於ける教育を受けたる婦人の國内に於ての重なる職業なり、

◎大日本膨脹の歌と處世の歌 讀賣新聞社にて募集したる大日本膨脹の歌と万朝報に於て募集したる處世の歌とは共に元旦發行の兩新聞紙上に發表されたり我發行所は特に兩社の承諾を得て之を左に轉載す

●大日本膨脹の歌（禁轉載）　永井人馥作

（一）日本男兒奮つて起たん　日の旗さゝげ雄ごゝろ固め　海を越え　山を越え千里萬里　目ざす端まで

（二）歷史を見れば古人は雄飛　雞林蹴たてシベリヤまくる　アリナレも　アルタイも　吾の祖先　さても猛しや

（三）日英同盟東洋平和　此機をよしと　乘り出す前途　進取それ　國是それ　唱ふ國歌　士氣は昂れり

（四）明治の御代は吾們の舞臺　富強の威力世界に示し　北に延び　西を占め　倶に植む　大和なでし子

●處世の歌（禁轉載）　中里白香作

吾等が力弛む時
朱綬の宰相威嚴なく
希望の光地に落ちて
　吾等が汗の乾く時
　紫綬の將軍名譽なく
　果ては國家もなかるべし

吾等が鍬を捨る時
紳士も饑を嘆くべく
紅顏玉姿の愛は失せ
　吾等が梭を投る時
　淑女も寒に堪へぬべく
　死せる社會となりぬべし

吾等が鶴嘴執らぬ時
汽鑵の釜に湯氣もなく
海陸忽ち便り絶え
　吾等が斧の錆る時
　彫闌畫棟の影もなく
　世は渾沌となりぬべし

吾等が劍執らぬ時
兵舍の門に雀羅張り
内患外憂暇もなく
　吾等が艦に乘らぬ時
　四海の浪に錨錆び
　國家の秩序なかるべし

吾等は無位の王者なり
黄金の冠あらずとも
四千餘萬の生命は
　吾等は無上の權者なり
　與奪の權はあらずとも
　懸りて吾等の肩にあり

吾等は神の寵者なり
食には八珍あらずとも
健全の幸身に受けて
　吾等は國の勇者なり
　着るには綾羅あらずとも
　弱者か救ふ力あり

吾等は自主の司なり
兵仗左右を衞らずも
耕して喰ひ掘りて呑む
　吾等は自由の主なり
　人爵姓を飾らずも
　獨立獨歩の覺悟あり

吾等は國の寶なり
牛羊放つ野はなくも
働く腕に汗たりて
　吾等は富の基なり
　堤を築く粟なくも
　懶者を鞭うつ氣慨あり

曉近き大空に
吾等の通ふ樂園は
一致の愛に助けあひ
　希望の星の招く時
　冷たき禮の煩もなく
　謠ふ唱歌に力あり

夕月迎ふ妻の笑み
食卓圍み睦みあひ
罪なき身には苦悶なく
　慰安の神に袖ひかれ
　果は臥戸に入りし時
　夢も圓に結ぶなり

心に刻む自主の銘
浮雲の富も望なく
吾等は正しき道ふみて
　艱苦に琢く胸の魂
　沙上の榮華見るも憂し
　最後の勝利期するなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店

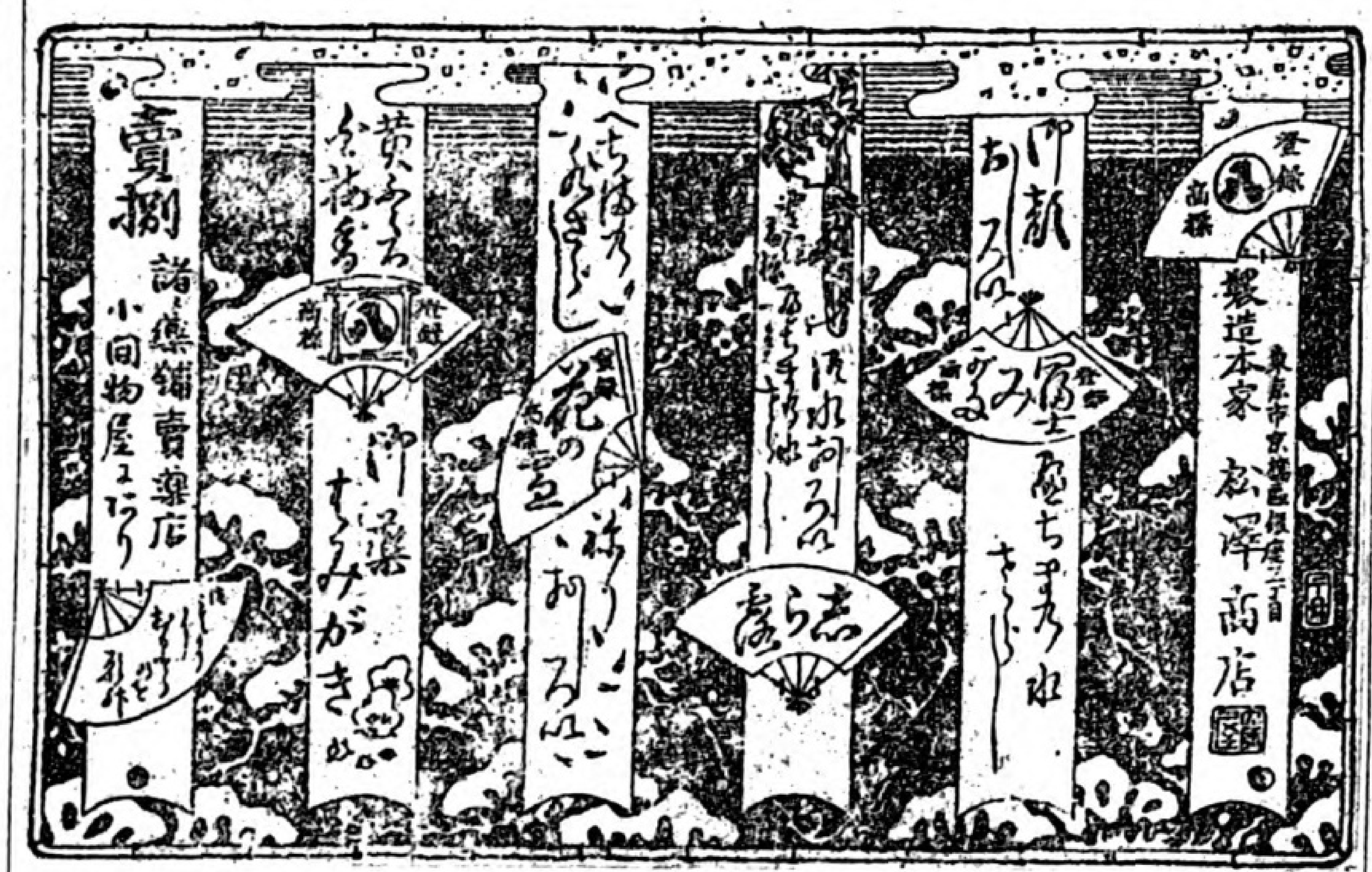
小賣部 東京本郷區本郷五丁目二十三番地
美濃磯支店

（み）
誂袴專門

袴の親玉
男女用

電話浪花二千八百五十九番
電信略号 ミイツ

電話本局千四百十五番



ヴワイラレット製
壽美花おしろい

定價 大瓶二十錢 小瓶十二錢
定價 大瓶廿五錢 中瓶十五錢 小瓶十錢

西洋色白くする洗劑
壽美花あらひ粉

定價綠藍紅彩蝶番ひ罐詰六錢五厘ホックス入五袋入拾錢

恭賀新禧
本年も不相變御用希上候

半ゑり帯揚類 御題模樣

顔面皮膚高等洗粉 チエリー 定價 大瓶三十錢 小瓶十二錢

發賣元 ゑり治商店
本舖 新橋竹川町十二
電話新橋二千二十七番

（中）
帝國貯蓄銀行
銀座一丁目河岸通り 電話新橋八一六番

本郷一丁目 本郷支店
飯倉四ッ辻 飯倉支店
赤坂表一丁目 赤坂支店
四谷大通り 四谷支店
南品川一丁目 品川支店
横濱吉田町 横濱支店
牛込神樂坂 神樂坂支店
神田須田町 須田町支店
兩國米澤町 米澤町支店
淺草雷門前 吾妻橋支店
代理店 日本橋坂本町 田中銀行

●一錢以上何程にても御預り最も御便利に取扱申候
●毎月五日迄の御預け金は全月分の利子を付け申候

海軍大臣男爵山本海軍中將題字
海軍大尉長尾耕作著

海軍實話

全壹冊 四六版二百廿頁
定價金四十錢 郵税金六錢

海軍戰後の經營は略、完成を告げたり、健忘なる國民は、凸兀山の如き裝甲艦と、快捷電の如き水雷艇とを見て、早く既に、臥薪嘗膽を唱へたるの徃時を思はざるが如し、是れ蓋し、形而下の海軍を知りて、未だ形而上の海軍を知らざるが爲のみ。抑も、海軍は死物に非ず、而して之を活動せしむるの責は、國民に在り。長尾大尉茲に見るあり、我か帝國海軍の眞情を寫して、論述するところ、縷々數萬言に及ぶ。海軍擴張を、刻下の急務とせる今日に當り、海國男兒の讀物として、最も適切なりと云ふべし。

目次

○帝國海軍力 ○軍艦及艦の類 ○軍艦の種別 ○軍艦の兵器 ○軍艦の組織 ○軍艦内の生活 ○敷設水雷 ○軍艦内の沈沒
○海軍の旗章及信號 ○今の海軍々人 ○海軍の服裝 ○潜航水雷艇 ○艦内の娛樂 ○海軍々政
○黃海の海戰 ○海軍出身者指南 ○海軍陸戰隊 ○チルソン逸話 ○此の外寫眞及彩色圖數多挿入

發賣元 東京京橋區竹川町十三 共益商社書店 電話新橋二五九番

◎第七號一月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人界

◎定價一冊に付金貳拾錢 郵税貳錢 ●七冊十四冊（郵税共）前金壹圓四十四錢 前金貳圓七拾八錢

婦人界第七號目次

▲口繪
寺崎廣業筆石版極彩色畫―洋畫天使―景色―ベーベンスの愛兒―短冊と色紙―水車小屋―令孃鑑―宮中料理―三井と白木屋
▲婦人界
歳首の辭……
挨拶……佐々醒雪
竹の園生……
▲小說
懸賞小說選定に就て……齋藤弔花
懸賞小說當選披露に就て……
懸賞小說 袖の露……平尾不孤
同 羽衣教會……しらつゆ
同……内山幸子
▲論說
娛樂問題
同 娛樂と音樂……鳩山春子夫人談
東京音樂學校教頭 上原六四郎氏談
婦人と遊戯 華族女學校學監 下田歌子氏談
平和と娛樂 文學博士 井上圓了氏談
露西亞婦人の娛樂……瀬治格三郎氏談
家庭の教師……德富猪一郎氏談
正教學校教師……
佛蘭西人の娛樂……フランソアーサラズエン氏談
▲家庭
他の家庭に於ける妙齡女子の生活……
元高等商業學校長 寺田勇吉
家庭教育に於ける乳母の地位（續）……文學博士 松本愛重
高家の子守歌……加島汀月
兎の園遊會……在大學 田中桑郎
宮中三日の御獻立新年料理……
扇芳亭 岩間芳松氏談
初春料理 八百善 栗山善四郎氏談
▲社會
婦人の半面……茅原蘭雪
毛利公母堂安子夫人……羽仁もと子
明治三十五年の婦人界……横山天涯
工女の新年……
貴女の結ひ……
流行衣裳携帶品……礫川生
▲附錄雜纂
勇ましきエールス夫人（上）……野田まさ
紫潮記（一）……齋藤弔花
新春の歌……三木天遊
門松の風……森桂園
弱薔草……緑山隱士
春のくさく……井上折山
▲内外時報外數件

發行所 東京本町 金港堂書籍株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人洋服地幷附屬品及袴地

服地、リボン、手袋、肩掛、帽子、造花、羽根、ピン、櫛、女學校用**袴地**各種着荷仕候**吾妻**コート地珍柄種々澤山新着仕候尚廉價ニ新調仕候間多少共御注文被下度願上候

東京市麹町區麹町二丁目七番地

婦人洋服地 附屬小間物 御小賣商　八木屋號 **大國服裝店**

電話番町七四二番

婦人用美術裝飾品商

東京南傳馬町二丁目

大西白牡丹

電話本局三千番

家事衛生

正四位勳三等醫學博士三宅秀先生著
大日本女學會發行

總クロース綴ち金文字入り菊判二百四十頁
定價金六十錢　郵税金六錢

此書は文部省學校衛生顧問内務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑託により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき様懇切に說示されたる世に類なき家庭主宰者の寶典なり

大賣捌所　東京神田區一橋通町七　**有斐閣**

官費私費生徒募集

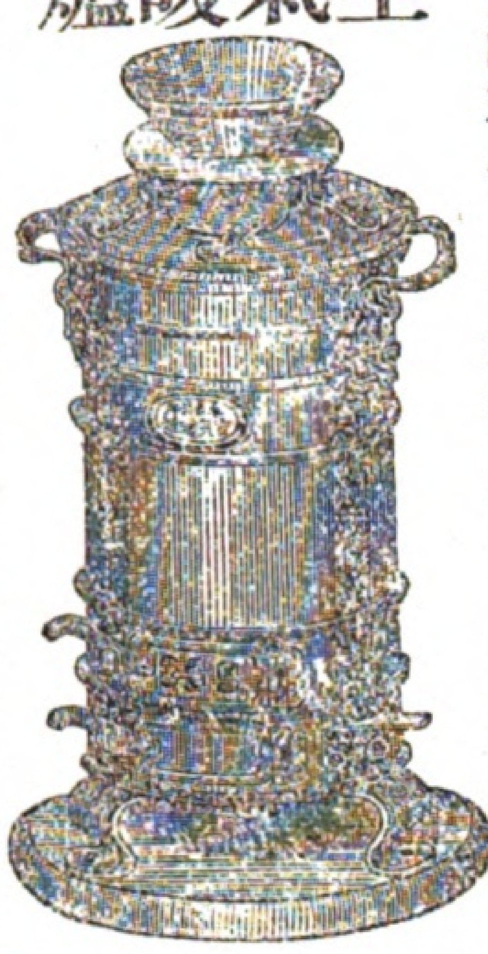
本校甲種師範科生徒官費私費共若干名を募集す入學志願の者は願書に履歴書及戸籍謄本を添へ來る三十六年二月十六日迄に願出づべし

但詳細は十二月十日官報廣告欄にあり

東京音樂學校

專賣特許新發明

空氣暖爐



發賣元　東京市淺草區諏訪町一番地（電話浪花八百參拾壹番）　**小原商店**

●本器發賣以來非常なる好評にて社會に賞用せられ現に成田鐵道株式會社の如きは御實驗の上今回客車室内防寒用として製造を命ぜられ其他各地より續々御用命に御座候

●本器は極めて少量の炭火を以て空氣の作用に依り强勢なる溫熱を發し永く室内へ置くも火氣にのぼせる憂なし

●本器に一度炭を投入せば更に手數を要せず十五時間以内同様の溫度を保つ故客室事務室は勿論寢室又は寒氣を厭ふ病室に用て至極妙也

●一個代五圓四十錢荷造り費一個金四十錢

●本器明細書御申込次第送呈す

●東京大阪市内は御報次第持參す

（注意）本器には專賣特許及空氣暖爐の標記あり

大阪市南區安堂寺町四丁目御堂筋北入る　**小原商店**

●使用は輕便マッチ一本にて焚付き火力加減自由なり●

瓦斯の煮焼

當社構内陳列所にて各種の瓦斯器數千類縱覧に供す

神田區錦町三丁目

東京瓦斯株式會社

●費用は薪炭よりも低廉にして且大に人手を省くを得●

●二升の米は瓦斯代僅かに一錢八厘にて炊くを得べし●

●火災の危險なく晝夜何時にても即時に間に合ふべし●

來る十五日發刊

第三卷第一號目次

（巻首筆蹟口繪）公爵母堂毛利安子筆、英國婦人エム、マクリーン孃肖像（論說）歐米女子敎育の現況、下田文學士○女子と社會の進運、正木直彦（學藝）和書解題、喜田文學士○漢書解題、丸井文學士○日本名媛批評、下田歌子○涉史餘話、津田黃昏○音樂階梯、森えづか○作文批評、今泉定介（修身）歐洲女德變遷史、本田增次郎（齋家）點茶、松浦伯爵○家計費目の割合、吳文聰○家計收支の實況○各地の特殊料理（世務）法制談、岡戸論介○經濟談、伊藤秋南○各地產業の實況（史傳）ナポレオンの母、吸江（譚艸）兎の吸物、月廼舍かつら○姑御樣、岸本柳子（詞藻）新年の詞、本居文學博士○田家の梅といふ事を題にてかける文、木村文學博士○田邊和氣子日記○みやび會員詠進の歌（雜錄）養蠶の話、長岡哲三○刺繡、木村仲子○婦人論梗概（彙報）内外要報十數件

毎月一回十五日發行
毎號紙數菊版百四十頁
定價金拾五錢　全國無遞送料

大賣捌　神田表神保町三 **東京堂**　京橋銀座四ノ一 **東海堂**　神田一橋通町七 **有斐閣**　京橋鎗屋町六ノ一三 **北隆館**

◎特約販賣店

◎東京堂　神田表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

明治三十六年一月十日發行（毎月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　大日本女學會内

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場